

普及だより



キャメロンハイランド (マレーシア)
での日本式農業



インドネシアからの農業研修生
(管内の研修生は写真上中央のスهندリさん)

「あなたは、何故に答えることができるか」

今回の、普及だよりのテーマは、「海外に目を向けて」とした。

平成の開国元年と表現される2011年、海外との経済連携と農業改革を進める国の方針が示され、TPPへの参画検討が国論を二分している。

また、地球温暖化や異常気象が常態化するという懸念、農村の高齢化それぞれは何を意味するのか？打つ手は何か？

あなたは、これらの何故に答えることができるだろうか？

子供が物心つき、いろいろなことに興味を持ってくると「何故なぜ」攻撃が始まる、「なぜ、雨がふるの？」等、そして大きくなると問われることも無く、会話も少なくなる。

2000年から、義務教育終了段階の15歳の学生を対象に、数学的、読解的、科学的リテラシー、問題解決能力の4領域の知識と技能についてPISAという学習到達度調査が行われている。

このPISA、「知識や経験をもとに、自らの将来の生活に関する課題を積極的に考え、知識や技能を活用する能力があるか」をみるもので、2000年の読解的領域の調査結果では、日本の学生の回答に、何も書いていない答案が少なからずあったという。

この何も書けないという状況、就職難といわれる今、日本が抱えるさまざまな問題に直面する企業が実施する採用試験で、海外の学生が採用され、手も足も出ず、苦勞している多くの学生が陥っている状況に似ていないだろうか。

冒頭にあげた新たな経済的枠組みなどは、経験したことの無い問題であり、これらへの対処は、知識だけでは解決できない課題である。

PISAで日本が陥っている問題が見えてきたように、農業においても、海外に目を向けて考えることで、状況が正確に読み解け見えてくるものがあると思う。

TPPを推進している訳ではない、TPPへの参画が必要とされる状況変化にぶれない経営判断、対処方策を導き出すためにも、子供のやわらか頭、視点で、自分の農業経営に疑問を投げかけた時に、何故に答えることができるだろうか？

担い手育成に向けた取り組み

●～新規就農者研修会～

果樹試験場において、新規就農者8名が参加し、基礎的な農業技術の習得と相互の交流を目的に研修会を開催しました。参加者からは、「防除の適期の大切さを教わり、大変有意義な内容だった。」「この研修会を機会に果樹試験場の方とつながりができて質問等しやすくなった。」というような声が聞かれました。

今後もこのような研修会を開催し新規就農者を支援していきます。



●～病害虫防除対策研修会～

和歌山地方農業生活連絡協議会と和歌山県の共催で、佐賀県上場宮農センター 副所長田代暢哉氏を講師に迎え、『薬剤散布の‘いろは’「今日からあなたはプロフェッショナル!!」』と題して講演頂き、研修会を開催しました。講師からは、実例を挙げながら根拠に基づいた防除方法の説明があり、その中でも特に「防除暦どおりに薬剤散布を行うのではなく、気象や病害虫の発生状況などに留意して防除を行うことが重要。」との話があり、参加された農家の方に何らかの考えるヒント、刺激になればと思います。

今後もこのような研修会を開催し、農業者を支援していきます。



●～和歌山地方農村青年交流会～

和歌山地方農村青年交流促進協議会と和歌山地方4Hクラブ連絡協議会主催で、4Hクラブ員10名と県内外からの女性21名が参加し交流会が開催されました。ブルーベリー狩り体験や親睦バーベキューと宝探しゲーム、ブルーベリージャム作りなどをして交流しました。

これからも農業者と一般の方が体験交流などを行って農業や農生活に対する理解と関心を深めてもらえるような支援を行っていきたいと考えています。



食育の推進

子供たちに「食」の大切さや地元農業・農産物への理解を深めてもらう食育活動を行っています。

①梅干しづくり体験

小学校2校で梅干しづくり体験を実施。生活研究グループの食育ボランティアの方々にもご指導をいただきました。その後、梅干しを使ってお弁当づくりに取り組むなど、様々な体験につながっています。



②米づくり体験

農家の指導のもと小学生119名が「田植え」と「稲刈り」を行いました。

自分たちが日常食べているお米の栽培を体験することにより、農業の楽しさと食べ物大切さを学びました。



③キッズシェフ体験

県調理師会、JAの協力を得て、小学校2校においてキッズシェフ体験を実施しました。

「地元の食材を使った料理はとておいしくて、いい経験になった。」などの意見があり、調理実習を通して料理の仕方や地元の食材を知り、「食」に関心をもってもらえました。



鳥獣害対策の取り組み

野生鳥獣による農作物被害が県内各地で深刻な問題となっています。

海草管内においても、イノシシを中心とする農作物被害が4千万円（平成21年度）発生しています。鳥獣害が日常的に存在し、営農面の被害にとどまらず、農作物が作付けできないことによる営農意欲の低下、さらには耕作放棄地の増加といった環境面の被害にもつながっています。

これまで、捕獲による駆除や、農地への侵入防止柵の設置などの対策が主に実施されてきました。しかし、捕獲駆除や侵入防止対策だけでは被害対策は十分でないことが全国的に明らかとなってきています。

被害防止対策を進めるにあたっては、上記対策に生息環境の管理（藪刈り払い等）を組み合わせ合わせた総合的な対策が重要であり、また、これらの対策を地域住民が一体となって取り組むことが成功への道となります。

●海草管内での取り組み

海草管内では鳥獣害対策研修会を開催し地域リーダーの育成を行うとともに、地域住民が一体となって鳥獣害対策に取り組む集落の支援を実施しています。

●被害地図の作成

集落の弱点を見つけ、対策を考えるのに必要な被害地図を作成しました。

地図を囲んで話すことにより、地域の実情を参加者全員で確認することができました。



○農業者等を対象とした勉強会を開催

近畿四国中国農業研究センターの井上雅央氏を招き「だれでもできる鳥獣害対策」と題し勉強会を開催しました。井上氏の話では、イノシシのイサには「食べられて怒るイサと怒らないイサ」の2種類があり、知らない間にイノシシの餌付けを行っているとのこと。また、現地勉強会では正しい防護柵の設置方法や捕獲のポイントについて、力強くわかりやすい説明に参加者からは「目から鱗の話ばかりだ」と、驚きの声が上がっていました。

産地活性化に向けた新たな取り組み

～花木（ユーカリ・アカシア）産地化への取り組み～

耕作放棄地の有効利用及び所得向上を目指しJANAがみねとともに花木（ユーカリ・アカシア）の産地化に取り組んでいます。

○ユーカリでの取り組み

ユーカリと言えばコアラのイサと思いがちですがフラワーアレンジメント用切り枝として広く消費されています。

品種はグニー、銀世界、アップルを栽培し産地化を目指しています。



○アカシアでの取り組み

アカシアの開花時期は3月ですが、早咲き処理（ふかせ）に挑戦し、1月下旬出荷に挑戦しています。

今後、計画的な出荷に取り組んでまいります。



受賞おめでとうございます

和歌山県農林水産業賞

平成22年度は次の方が受賞されました。
農業部門 西山 保夫さん（海南市）



この賞は農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、他の模範となるべき個人及び団体の功績を表すものです。

和歌山県食育推進表彰

平成22年度は次の方が受賞されました。
井上 安子さん（和歌山市）



この賞は優れた食育活動の功績を表すものです。井上氏は、子供達に土や植物に触れる場を提供し、農産物への興味を引き出すため、長年にわたり子供達を招いてイチゴ収穫体験等を行っています。

和歌山県青年農業者会議最優秀賞（知事賞）

海南市4Hクラブ連合会 石橋 佑次さんが受賞されました。



この賞は、青年農業者プロジェクト発表にて最優秀の成績を収めたものを表すものです。

「わかやま喜集館」で商品PRやテスト販売をしてみませんか？



わかやま喜集館は、生産者の方が東京で新製品のPRや新規顧客の獲得、お客様の反応調査などを希望される場合にご利用になれます。

詳しいことにつきましては、食品流通課までお気軽にご相談ください。

農林水産部食品流通課

TEL:073-441-2819 / FAX:073-432-4161

お知らせ

農業振興課のホームページでは、農業に関する情報発信を行っています。

ぜひ、アクセスしてみてください。

URL

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/sangyou/130151/toppage.html>



編集後記

日本の農業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷や鳥獣による被害など、厳しい状況となっています。そのような中、TPPなど更なる問題も発生し、状況は目まぐるしく変化しています。

このような時だからこそ、広い視野を持ち、海外にも目を向け、チャンスに変えていきたいものです。